

## 各取組の考え方

### ■情報アクセシビリティの確保と情報提供の内容の充実

情報アクセシビリティとは、年齢や障害の有無等に関係なく、だれでも必要とする情報や情報に関するサービスにたどり着け、利用できることです。

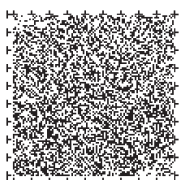
本来望ましいのは、あらゆる情報についてアクセシビリティを確保することですが、特に、不特定多数の人が利用する公共施設等が、印刷物やホームページで提供する情報については、留意する必要があります。

最近では、商品やサービスの説明書や広告、パンフレット等が印刷物だけでなく、企業のホームページで提供されることも多くなってきました。日常生活に必要なこうした情報も、提供に当たってはアクセシビリティに配慮することが重要です。

また、施設やサービス等を十分に、かつ、円滑に利用してもらうためには、提供する情報の内容についても、充実させる必要があります。

情報がわかりやすく提供されているか、また、十分な情報が提供されているか、利用者の視点から点検の仕組みを用意しておくことも必要です。

区市町村等の取組事例は61ページ



## 印刷物・ホームページの取組のポイント

## 【印刷物のポイント】

- 点字版、音声版により提供する
- 拡大文字やルビ文字付き（ふりがな併記）で提供する
- 点字や音声は、漢字の読みがなが正しく変換されているか確認する
- 点字資料は、ページごとに切り分ける
- 色の種類や組み合わせ等（カラーユニバーサルデザイン）に配慮する
- 文字の大きさやフォントが読みやすいものになるよう配慮する
- 商品等に印刷する文字についても、読みやすいものになるよう配慮する

## 【ホームページのポイント】

- 日本工業規格による「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ」（JIS X 8341-3）のより高い達成基準を満たす  
例）点字や音声への変換ソフトなど、利用者が必要とする形式に変換できる内容とする  
文字の拡大機能を設ける  
難解な語句には説明を設けるなど、わかりやすい表現を用いる
- 公的機関のホームページのアクセシビリティに関する取組項目や手順等を示した国の「みんなの公共サイト運用モデル」を活用する
- ▶▶▶みんなの公共サイト運用モデルのURL  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/w\\_access/index\\_02.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/w_access/index_02.html)

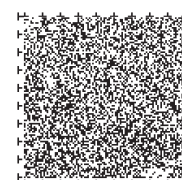
ココイチのカレーは量・辛さ・甘さも  
トッピングもお好み次第

ポークカレー	429円(税別463円)
ビーフカレー	553円(税別597円)
ハッシュドビーフ	553円(税別597円)
※ハッシュドビーフは取り扱っていない店舗もございます。	
ロースカツカレー	698円(税別753円)
やさいカレー	620円(税別669円)
フライドチキンカレー	650円(税別701円)
イカカレー	620円(税別669円)
手仕上げレカツカレー	858円(税別926円)

ハーフサイズカレーもございます。  
詳しくは店舗従業員にお尋ねください。

## 点字版による提供の例

飲食店における点字メニュー  
(株式会社壱番屋)



## 提供する情報の内容

【ホームページ等で提供すべきユニバーサルデザインに関する情報の例】

<公共施設>

▶高齢者や障害者等に配慮した設備等の情報

例) トイレ (場所、機能、設備)

エレベーター (場所、車いす利用者対応の有無)

エスカレーター

スロープ

駐車場 (場所、障害者等用駐車区画の有無、利用時間)

誘導ブロック

授乳室

案内所・案内板

▶非常口の位置、災害時の避難ルート

▶障害者等に配慮した情報保障 (手話通訳、要約筆記、音声装置の準備等)

<行政機関>

▶バリアフリー化に関する進捗状況 (地域ごとに提供することが望ましい)

▶福祉のまちづくり推進計画やバリアフリー基本構想など取組の計画

▶福祉のまちづくりに関するイベントや講座等の情報

▶福祉のまちづくりに関する事業実績や取組事例

<民間事業者>

▶説明書など、商品やサービスの安全にかかわる情報

▶コミュニケーションを円滑にするための最新の機器等の紹介

▶高齢者や障害者等に配慮した設備やサービスの紹介

## テレビ・ラジオ・映画の取組のポイント

【テレビ・ラジオの利用に関するポイント】

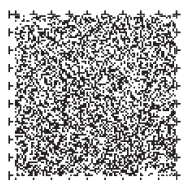
●公共施設等に置かれているテレビでは、字幕表示機能をオンにする

○公共施設等では、ラジオを備えておくことで、災害時等における視覚障害者への情報提供手段として活用できる。

【テレビ番組や映画の制作のポイント】

○テレビ番組や映画には、字幕や手話通訳をつける

○テレビ番組や映画作品をDVD等で市販する際には、字幕データを入れるよう配慮する



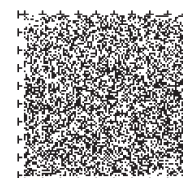
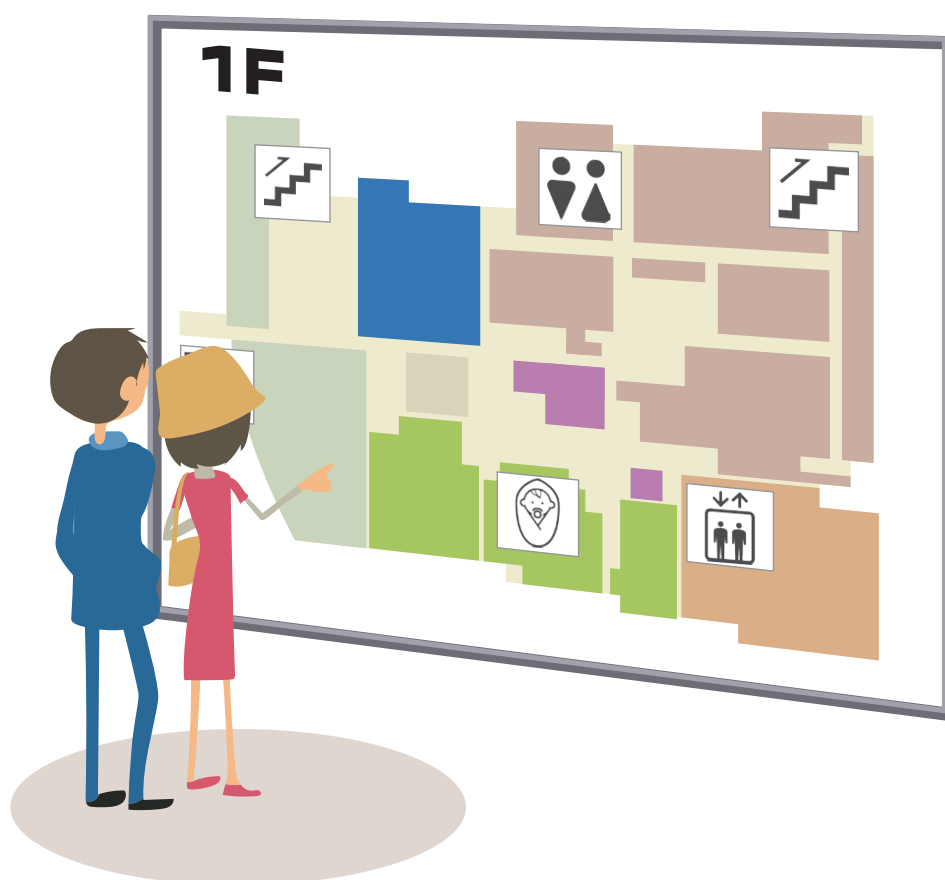
## 地域のバリアフリーマップ

バリアフリーマップは、地域におけるだれでもトイレの場所のほか、駅や店舗等のバリアフリー化の状況を掲載したマップで、高齢者、障害者等が外出前や外出先で、必要な情報を効率的に収集するために有効です。

既に作成されているマップでは、印刷物の配布による方法と、ホームページ上での情報提供による方法があります。印刷物は一覧性や持ち運びに優れている一方、ホームページでは、音声読み上げや拡大文字などに対応できるほか、内容をタイムリーに更新できるなど、それぞれ利用者にとってメリットがあり、両方に対応することが望めます。

掲載すべき項目としては、以下のもの（51ページ）が挙げられます。

区市町村等の取組事例は62～63ページ



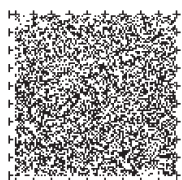
## マップの掲載内容

### 【バリアフリーマップに掲載すべき項目】

- ▶ トイレの情報（機能、設備、だれでもトイレの場所など）
- ▶ エレベーター、エスカレーター（利用時間などの情報を含む）
- ▶ スロープ
- ▶ 階段
- ▶ 駐車場の情報（障害者等用駐車区画の有無、利用時間など）
- ▶ 誘導ブロック
- ▶ 授乳室
- ▶ 非常口

### 【トイレの情報として掲載すべき項目】

- ▶ 機能や設備の情報
  - ・車いす使用者が利用できるスペース
  - ・洗浄装置（シャワー機能）
  - ・オストメイト用水洗器具
  - ・ベビーチェア、ベビーベッド
  - ・大型ベッド
  - ・点字・音声による案内
- ▶ 利用時間（利用時間が限られている場合）
- ▶ スイッチやボタンの配置（注意が必要な場合）
- ▶ その他、利用に当たって注意が必要な点（トイレトペーパーがない、安全上一定時間経過後に扉が開く等）



## 取組のポイント

### 【作成方法】

- マップは、印刷物で作成するとともに、ホームページで提供する
- 常に最新の情報を公開していくことが重要であるため、民間団体やボランティアを活用して、情報収集等を行う
- マップに掲載できる情報はスペースに限度があるため、区市町村内をいくつかの地域に分けて、詳細な情報を作成することも有効である
- トイレの情報は、多くの人にとって安心して外出するために重要であることから、トイレマップとして個別に作成する

### 【内容】

- 施設の情報だけでなく、道路の段差や歩道幅員、音声案内設備など、目的地までの移動に必要な情報を掲載する
- 行政の施設だけでなく、民間事業者とも連携して、駅や店舗等も含めた情報を掲載する
- ホームページ版のマップを作成する場合は、必要な情報を容易に得られるよう検索機能を設ける

### 【配布・周知】

- マップを多くの人に活用してもらうために、配布場所や掲載しているホームページのアドレスをわかりやすく周知する

